

代表取締役

安東 孝

× 布川 敏和

父親が築いた会社を守り、
優れた左官技術を未来へと紡ぐ

【安東社長の足跡】

福岡県出身。高校を卒業すると同時に、個人で左官業を営む父親のもとに弟子入りする。そして現場で一から経験を重ね、組織の法人化に伴って二代目に就任。以来、積極的に新規顧客の開拓に取り組みなど、会社の基盤を熱石のものとするべく、がむしゃらに走り続けている。

新進気鋭



会計責任者の木山光さんと従業員の木山静樹氏を交入の記念撮影

「お話を伺って、安東社長は職人魂をとても大切にされている方だということがとてもよく分かりました。社長を見ていて、日本の若者もまだまだ捨てたものじゃないと思います。建設業界、ひいては日本の明るい未来のためにも、是非活躍してほしいですね。」 布川 敏和・副



福岡県飯塚市に拠点を構え、左官工事業を手がけている「安建」。創業者である父親のもとで技術を学び、法人改組を機に二代目に就任した安東社長は今、偉大な父親が築いた会社を次の世代へとつなぐために、そして日本が誇る伝統の左官技術を後世に残すために、若手の育成に尽力しているという。今日は、タレントの布川敏和氏が社長のもとを訪れ、色々なお話を伺った。

布川 安東社長が左官職人を志したきっかけは何だったのでしょうか。

安東 端的に申し上げますと、両親に恩返しをしたかったからなんです。と言いますのも私は学生のころ、やんちゃばかりしていました、親には色々迷惑をかけていたんですね(苦笑)。それで、父の仕事を手伝うことが唯一の親孝行だと思い、高校卒業と同時に、左官業を営む父のもとに弟子入りしました。

布川 お父様もきっと嬉しかったでしょうね。実際にお父様のもとで働き始めていかがでしたか。

安東 一緒に働くようになって、この仕事の大変さがよく分かりました。そして父の偉大さも。過酷な労働環境にも愚痴一つこぼさず、時には取引先に対して頭を下げる——家族を守るために人知れず苦勞を重ねていた父の姿を初めて目の当たりにし、父に対する尊敬と感謝の想いは一層深まったように思います。それから、「何とかが父の力になりたい」「父が築き上げてきたものを守りたい」という一心で、とにかくがむしゃらに仕事に励んできました。そして新規開拓の営業にも積極的に取り組み、その結果、会社の業績を向上させることができたのです。

布川 素晴らしいですね！

安東 また、仕事が増えていったことに伴って、新たに若い社員を採用するようになったのですが、そうすると、父の会社を守りたいという想いだけでなく、社員を守らなければならないという責任感も芽生えてきました。経営者である私が下手を打てば、社員を路頭に迷わせることになってしまう——そうならないために頑張ろうと、一層仕事に打ち込むようになりましたね。

布川 お父様に対する感謝と社員に対する責任感。それが社長の原動力となったわけだ！ では、二代目として会社を牽引する今、社長はどういったことを心がけて経営に臨んでおられるのでしょうか。

安東 若手を育てることですね。ご存じのように、建築業界では職人の高齢化が進んでおり、引退を考えるベテランの職人も増えています。このままでは、せっかくの優れた技術が若手に継承されることなく失われてしまう。そのような事態を防ぐことが私の使命だと考えているのです。そこで現在は、若い職人が楽しく働ける環境づくりに尽力しています。

布川 楽しく働ける環境、ですか。

安東 はい。本人が楽しめなければ、仕事も長続きしないでしょう。特に、この仕事は想像以上にハードなので、なおさらそうだと思います。

布川 確かに建築業界では、あまりの大変さに音を上げてすぐに辞めてしまう若者が多いと言いますものね。

安東 ええ。しかし、仕事がハードな分だけ、現場を終えた時の充実感、達成感も大きい。それらを若手に味わせることで、この仕事の面白さ、やり甲斐を伝えていきたいと考えています。

布川 なるほど。技術面については、社

長自らが指導されているのでしょうか。安東 いいえ。当社には腕の立つベテラン職人が揃っていますので、彼らに任せています。皆、しっかりと指導してくれているので、安心して見ていますよ。

布川 ということは、社長はサポート役に徹しておられるわけですね。社長はまだお若いですし、若手にとってよき兄貴分となっていることでしょう。若い職人さんたちに対して、何かメッセージはありますか。

安東 今、頑張ってくれている若手たちには、将来的に当社の中核を担ってもらいたいと考えています。そのためにも、厳しい修業を耐え抜き、大きな飛躍を遂げてほしい。私を飛び越えるぐらいの気概を持って仕事に取り組んでもらいたいですね。

布川 社長の想いは、きっと若手にも伝わっていると思います。それでは最後に将来の展望をお願いします。

安東 父から会社を引き継いで数年。今以て「やっぱり父には敵わない」と思うことが多々ありますし、父はまだまだ遠い存在です。もしかすると、一生かけても追い付くことはできないかもしれない。しかし、中でも懸命に努力を重ねることで、少しでも父に近付き、いつか追い越したいですね。

布川 社長ならきっと大丈夫ですよ！

安東 ありがとうございます。あとは、父から引き継いだこの会社を守り、次世代にバトンタッチすること。そのためにもしっかりと若手を育てていきたいと思えます。

布川 陰ながらではありますが、私も応援させていただきます！

(取材 / 2013年2月)

「時代に求められる会社を目指して」

無愛想でも厳格がよければそれでいい。職人の世界ではある意味、常識。でもあったこの考え方も、もはや過去のもの。「今は職人にも礼儀礼節が求められる時代です」と安東社長は断言する。だからこそ社長は、ベテラン・若手を問わず、全ての職人に礼儀礼節を大切にすることが指導しているという。中でも社長が徹底しているのが挨拶。当初はなかなか浸透しなかったが、根気強く指導を続けた結果、今ではほとんどの職人が気持ちのいい挨拶をできるようになったという。そして、その姿勢が顧客の評価を高め、同社には以前にも増して多くの依頼が寄せられるようになったのだとか。

時代の文化を重視し、顧客から求められる会社づくりに取り組む……。そんな社長が率いる会社であれば、これから先、どのような時代になろうとも、力強く生き抜いていくに違いない。

安建株式会社

福岡県飯塚市伊岐須 124-34
TEL 0948-28-1948